初会金剛頂経降三世品の一節について

白　石　真　道
酒　井　真　典

1

伊太利のヂュセッペ，トゥッチ（Giuseppe Tucci）博士がネポールより初会の金剛頂経（Tattvasaṃgraha-tantra）の梵本を将来されたことは既に伝えられているところである。如何なる理由に基くものか不明であるがその梵本の表題は Mahāsamayakalpa-rāja なる名が附されていると云われる。この度トゥッチ博士の著書である Indo-tibetica I（1932-X1刊）に降三世品の一節がデーバナーガリ書体で出版され，そのイタリー語訳さえも附されていることをしつたのである。その表題は La lotta fra Vajrapāṇi e Mahādeva（金剛手と大天との闘争（論争））となされている。これは仏教が外道を摂化抱擁した物語を取材としたものである。

酒井はこのデーバナーガリ書体の文とチベット訳（邦訳）とを対照してこれが降三世品の一節なることをたしかめ，更に相当の漢訳を附し，白石教授の下に報告した。白石教授は以上の二種の訳文をも参照して梵文を校訂並に本文に欠けている処等を補い，和訳を示されたのである。

既に知らるる通り，金剛頂経は真言宗の所依の経典であつて初会経は十八会の根本聖典である。真言宗特に東密の基礎教理はこの聖典に基くものであるから梵文の回収が長い間にわたつて求められていたのであつた。しかして梵文は既に湮滅してしまつたものと思われていたのであつたが幸にもトゥッチ教授が将来された恩恵によつて，その梵文（ローマナイズ）と和訳等を日本の学界並に真言宗徒に初めて報告し得ることは両人の甚だ光栄とする処である。

繁雑のきらいはあるが先ず梵文を示し，次にその和訳，次に蔵訳の邦訳，漢訳を示すことにする。梵蔵文はよく相応する。漢訳は現在の梵文よりも更に古い原文によつている訳であるらしいが宋訳である為に種々親しみ難いものがある。梵文に於ける頁，行数は全て Indo-tibetica I のものである。

尚，凡例，註記，語彙等は白石教授が作成されたものである。

各種資料の所在個処は

梵文, Indo-tibetica Ⅰ. Appendice Ⅱ. 135-140pp.			
(イタリー語訳)	同	140p-145p	
蔵訳, デルゲ版	東北目録479番	ña帙	50a^{3}-53a^{7}
北京影印版	同目録 112番	ña帙	55a^{3}-58b^{6}
			4Vol 240p$^{2\cdot3}$-241p$^{4\cdot6}$
漢訳, 大正蔵	同目録 882番		18Vol 370C^{14}-372b^{27}

(因みに白石教授はかつてロイマン教授の下で梵語を修得せられ、帰朝後高野山大学の教授となり，現在山梨大学の教授であられる)

凡　例

1. 「+」の記号は連声法 [sandhi]に依つて結合した語を分解して別々の語となしたことを示す。例：p.138,7：　ヴヂュラ+ウッティシュタ！〔金剛杵よ立ち上れ！〕, vajra+uttiṣṭha>vajrôṭṭistha
2. 和訳の語の上にある線は原梵文には存在せず，訳者が補つた語なることを示す：例：p.138,12の和訳：「又何の益があろう？」原梵には「又何が」とあるのみ。
3. (　　)は　ツッチ教授の補入を示す。
4. ((　　))は　酒井並に白石の補入を示す。
5. 文章に於ては各語を分解して了解し易くした。
6. 合成語に於ける各語はハイフン又は符号によつて分離した。
7. 母音の記号は次の如くなした。

a+a=â	ā+ā=ǎ
a+ā='ā	a,ā+i,ī=ê
ā+a=ā'	a,ā+e=âi

Ⅱ

Prof.　Tucci's Text.

p.135,1. atha Bhagavān *1) 'sarva-tathāgata-samay' ākarṣaṇa-vajraṃ' nāma

2. samādhiṃ samāpady' êdam | 'sarva-tathāgata-samayâṅkuśaṃ'

3. nāma sarva-tathāgata-hṛdayaṃ sva-hṛdayān niścacāra : | '((hūṃ)) ṭat kij jaḥ!'

(梵和)　さて世尊ビルシャナ如来(1)は「一切如来の本誓(サヤマ)もて牽き寄せるヴヂュラ〔金剛杵〕」と名づくる定(サマーヂ)に入れられ了つて，この「一切如来の本誓(サマヤ)もて牽き寄せる鈎(かぎ)」と名づくる一切如来の心呪を自身の御心(みむね)から発唱(とな)え出された：『フーン(hūṃ)・タット(ṭat)・キッヂ(kij)・ヂャハ(jaḥ)！』

(蔵和)　その時世尊が一切如来の三昧耶鈎の金剛と名づくる三摩地に等入し

て，次の一切如来の三昧耶の鈎と名づくる一切如来の心咒を自身の御胸より出したり。hūṃ ṭakki jaḥ

（漢訳）　爾時世尊一切如来。即入三昧鈎召金剛三摩地。説一切如来三昧鈎召一切如来心自心明曰吽引 吒枳嚩一句

ath' âsmin viniḥsṛta-mātre, sarva-lokadhātu-prasara-samudre=

4. ṣu | yāvantas trailokyâdhipatayo Mahêśvar' ādayas, te sarve

5. sarva-loka-saṃniveśa-ga|ṇa-parivṛtā aśeṣânavaśeṣāḥ sarva-ta=

6. thāgata-samaya-vajrâṅkuśen' ākṛṣṭāḥ sa|mānā, yena Sumeru-giri-

7. mūrdhā, yena ca vajra-maṇi-ratna-śikhara-kūṭāgāras, te|n' ôpa=

saṃkramya Bhagavato vajra-maṇi-ratna-śikhara-kūṭāgārasya

8. sarvataḥ pari|vāry' âvasthitā abhūvan.

（梵和）　さてこの心呪が唱えられるや否や，一切世界に遍満する諸の雲海に於て大自在天を首として，如何に多くの三世の上主たちが有ろうとも，彼らは総て一切世間に住する侍衆の群に囲い繞らされ，取り残されたる者も無く，「一切如来の本誓もて牽き寄せるヴヂュラ〔＝金剛杵〕の鈎〔＝心呪〕もて牽き寄せられながら，シュミ山の頂に，しかもまた金剛・珠・宝を尖頂とする楼閣の有る処，其処に参集して，世尊ビルシャナ如来の金剛・珠・宝を尖頂とする楼閣を遍く囲い繞らして坐していたのであつた。

（蔵和）　その時それを出すや否や広博世界の雲海の一切の雲に於て，大自在天を上首とする三界の自在者にしてあるだけのものたち全てが一切世間に住する聚会によりて囲繞せられたる無尽無余のもの等が，一切如来の三昧耶金剛の鈎によりて鈎召せられて，須弥山頂の金剛と摩尼と宝より作られたる楼閣そこに安楽に集会して，世尊の金剛と摩尼と宝より作られたる頂ある楼閣を普ねく囲繞して坐したり。

（漢訳）　説是心明時。舒遍一切世界雲海。乃至三界主宰大自在天等。一切世間普尽無余。彼集会衆而共囲繞。以一切如来三昧金剛鈎召故。悉召来詣須弥山頂金剛摩尼宝峯楼閣。仏会周匝囲繞而住。

9. atha Vajrapāṇis tad vajraṃ sva-hṛdayā ((d ud))gṛhy' ô*2)|llāla=

yan sarvāvantaṃ sakala-traidhātuka-tri-loka-cakram avaloky'

10. âivam āha : | "pratipadyata mārṣāḥ sarva-tathāgata-śāsane ! mama c' ājñāṃ pālayata ! "

11. atha ta | evam āhuḥ : "kathaṃ pratipadyāmaḥ ?"
Bhagavān Vajrapāṇir[*1] āha :

"Buddhaṃ Dharmaṃ ((ca)) Saṅghaṃ ca śaraṇa-pratipatti-taḥ,
12. Sarva(jña)-jñāna-lābhāya pratipadya ((ta)) mār((i))ṣā!" iti.[*3]

（梵和） その時，金剛手ボサツはそのヴヂュラ〔＝金剛杵〕を自分の心から把り出し，抽擲げ抽擲げしながら，全・三界・三世間の全域を遍く見渡して云うには：『聖者らよ，汝らは一切如来の教勅に従い修行せられよ！また我が指令を守られよ！』と。

そこで彼ら云うには：『如何に我ら修行すべきか？』と。

具徳・金剛手曰く：

『仏と法と僧団とに汝ら帰依をなして後，

一切知者〔＝仏〕の智を獲んが為，修め行え，聖者らよ！』

と。

（蔵和） その時金剛手は自の胸より我の金剛を把りて，抽擲しつつ三界者あるだけ一切の三界輪を見て次の如く宣えり，友等よ，一切如来の教えに入つて我れの教勅をも又聞けよかし，その時彼等が次の如く申上げおり。我等は云何が修すべき，世尊金剛手が宣わく，

仏と法と僧伽に　　帰依しつつ修すべし，
一切智々を得んが為に　友等は修すべし。

（漢訳） 爾時具徳金剛手菩薩摩訶薩。執金剛杵於心戯擲。一切大会普尽三界。遍観察已。作如是言。汝諸聖者。当於一切如来教中。依我教勅護持而行。時大自在天言。汝今会我当云何行。金剛手言。汝当帰命仏法僧宝。是為所行。汝諸聖者。若如是行。即得一切智智。

atha yo 'smin lokadhātau sakala-trailokyâdhipatir Mahādevaḥ
13. | sarva-trailoky' ādhipatya-garvito mahā-krodha-tāṃ darśayann
p.136,1. evam āha: "ahaṃ bho | yakṣa trailokyâdhipatir īśvaraḥ kartā'
2. dhikartā sarva-bhuvanêśvaro devâti|devo Mahādevaḥ. tat
kathaṃ yakṣ' ājñāṃ karisyāmi?" 'ti[*4]

（梵和） その時，此の世界に於ける全・三界の上主たる大天は一切三世の上主たるを誇り，大忿怒の相を示現しつつ云うには：『オイ，ヤシャ

よ，わしは三世の上主じや，自在主にして創造者•創造主•一切有類の自在主，諸天の中の上天たる大天（マハーテーグ）なるぞ。どうしてわしがヤシャの指令に従えよう』と。

（蔵和）　（蔵文の和訳を示すべきであるがある事情の下に記入し得ず，以下略す）

（漢訳）　時此世界極三界主大自在天。以我三界勝主宰故。起高倨勢現忿怒相。作如是言。汝金剛手大薬叉王。我為三界主最大自在。若成者壞一切部多中。我得自在。是天中大天。云何令我依汝薬叉王教勅而行。

3.　atha Vajra|pāṇiḥ punar api vajram ullālayann ājñāpayati :
4.　"bho duṣṭa-sattva śīghraṃ pra|viśa maṇḍalaṃ ! mama ca samaye tiṣṭha !"
5.　atha Mahādevo ((devâti)) devo Bhagavantam i|dam avocat: "ko 'yaṃ Bhagavann, ī((dṛ))*5)śaḥ sattvo,yo 'yam īśvarasy' âivam
6.　ājñāṃ da|dāti?"

（梵和）　そこで金剛手は再びヴヂュラ〔＝金剛杵〕を抽擲（ふりあ）げ抽擲（ふりあ）げしながら指令した：『オイ悪有情！迅（と）くわが会坐（マンダラ）に入れ！また本誓（サマヤ）に住せよ！』と。

そこで諸天の中の上天たる大天は世尊ビルシャナ如来に申すには：『誰ぞ是（これ）は？世尊よ！このような有情は？自在主たる我（われ）に斯（か）くも指令を与える者は？』と。

（漢訳）　爾時具徳金剛手菩薩摩訶薩。戯擲金剛杵。復援教勅言。汝大自在天極悪有情。今応速入大曼荼羅我三昧中。依教而住。

是時大自在天。前白世尊大毘盧遮那如来言。世尊今此大士。云何於我大自在天授教勅邪。

atha Bhagavān sarvāntaṃ Maheśvar'ādi-trailokya-gaṇam
7.　āhūy' âivam āha : | "pratipadyata mārṣās tri-śaraṇa-gamana-
8.　samaya-saṃvare ! mā 'yaṃ Vajrapāṇir, yakṣaḥ krūraḥ | krodhanaś ((c))aṇḍo, mahā-bodhisattvaś ((ca)), vo dīptena vajreṇa
9.　sakalam eva traidhā|tukaṃ nāśayed !' iti.
10.　atha Mahéśvaraḥ sakala-trailoky'ādhipatya-tayā sva-jñā|navaśi-tayā ca bhagavato Vajrapāṇeḥ saṃdarśanârthaṃ mahā-caṇḍa-
11.　krodha-tāṃ | mahā-bhairava-rūpa-tāṃ mahā-jvalôtsṛjana-tām

12. mahā-raudrâṭṭa-hāsa-tāṃ saha gaṇaiḥ | saṃdarśayann evam
āha : "ahaṃ bhoḥ sakala-trailokyâdhipaḥ. tvāṃ mam' ājñāṃ
13. | dadāmi." ti.

（梵和）　そこで世尊ビルシャナ如来は大天ら三世の総聚に呼びかけられて仰せられるには：『聖者らよ，三・依止に帰命し，本誓（サヤヤ）と制戒（サンヴラ）に従い修行したがよいぞ。此（こ）の金剛手は気荒く，怒り易く，残虐（むご）いヤシャだが，また大ボサツでもある。彼を怒らせて，その燃ゆるヴヂュラ〔＝金剛杵〕もて汝らの全・三界を破滅させることのないよう気をつけたがよいぞ！』と。

その時，大自在天は全・三世の上主でもあり，また自分の智慧にも自在を得たる者であると云うので，具徳（バガヴァン）金剛手に示威せんが為，甚だ残虐にして憤れる者であることを，甚だ恐るべき形相（すがた）をもてる者なることを，大火焔を放つの相（すがた）を，また甚だ暴悪なる高笑（たかにわら）の相を，その侍衆と倶に示現（あらわ）しつつ云うには：『オイ，わしは全・三世の上主なるぞ。汝にこそ我（わ）が指令を与えよう』と。

（漢訳）　爾時世尊大毘盧遮那如来。普告大自在天等諸天衆言。汝等応当帰依三宝三昧戒中如是所行。若不然者。此金剛手菩薩大薬叉王。現暴怒相極悪威猛。無令以我勝金剛杵出火光焔。尽此三界悉使破壞。

時三界主大自在天。以其三界宰自智自在故。為具徳金剛手菩薩。現大怖畏極悪忿怒大威猛相。出大熾焔大悪大笑。并自着属同時出現。作如是言。金剛手今我極三界主。授汝教勅依我所行。

atha Vajrapāṇis tad vajram ullālayan vihasann evam āha :
14. | "pratipadyasva, bho kaṭapūtana, mānuṣa-māṃs'āhāra, citi-
15. bhasma-bhakṣya-bhojya-śeyyă|sana-prāvaraṇa mam' ājñām!" iti.
16. atha mahêśvaro Mahādevaḥ sakalaṃ trail|okyaṃ mahā-kro=
dh' āviṣṭam adhiṣṭhāya evam āha : "tvam api mam' ājñāṃ
17. pā|laya ! samaye ca pratipa(dyasvê)!" 'ti.
18. atha Vajrapāṇir mahā-krodha-rājo | Bhagavantam etad avocat:
"ayaṃ Bhagavan Mahādevo ((devâti))devaḥ sva-jñāna-bala-ga=
19. | rvān mahaiśvaryā(d ādhipa)tyāc ca sarva-tathāgata-śāsane na
20. praṇamati. tat katha|m asya kriyata ?" iti.

（梵和）　その時金剛手はかのヴチュラ〔＝金剛杵〕を抽擲げ抽擲げしながら，嘲り笑いながら云うには：『友よ，カタ・プータナ鬼よ！人肉を嗽う者よ！葬薪の灰を硬食・軟食とし，寝具，坐具・衣服とする者よ！我が指令を修めたがよいぞ！』と。

そこで大自在天たる大天は全・三世が金剛手の大忿怒に圧倒されたのを加持〔＝援護〕して云うには：『汝こそ我が指令を守れ！また我が本誓に従い修行せよ！』と。

その時，大忿怒王たる金剛手は世尊ビルシャナ如来に申し上げた：『世尊，諸天の中の上天たる此の大王は自分の智力を恃み，大自在主であり，また大上主であるからと云つて，一切如来の教勅を敬礼いたしません。彼を如何処置いたしましょう？』と。

（漢訳）　爾時具徳金剛手菩薩摩訶薩。復擲金剛杵熙怡微笑。作如是言。汝是羯吒布単那所生。以人肉屍灰雑悪為食。床座服飾而悉邪弊。如是所行。云何令我同汝教行。

時大自在天起大忿怒相。以自威力復作是言。汝既然者。我亦守護自教。自三昧中依教而行。

爾時具徳金剛手菩薩摩訶薩大忿怒王。即白仏言。世尊此大自在天。恃自智力大富主宰高倨自在故。於一切如来清浄教中。不生帰信。我今云何随所能作。

atha Bhagavān sarva-tathāgata-hṛdaya-saṃbhūtaṃ mahā-
21. vajra- | samayaṃ smārayati : “oṃ niśumbha vajra hūṃ phaṭ!”
22. atha Vajrapāṇir ma | hā-bodhisattvaḥ sva-vajra-hṛdayam udā=
jahāra : “hūṃ ! ”
23. ath' âsmin bhāṣita-mātre | sakala-traidhātuka-saṃnipatitā
24. Mahādev'ādayaḥ sarva-trailokyâdhipatayo 'dho- | mukhāḥ pra=
patitā ārtā-svaraṃ muñcanto Bhagavato Vajrapāṇeś ca śara=
p.137,1. ṇaṃ | gatāḥ. sa ca Mahādevo ((devâti))devo bhūmyāṃ prapatito
niśceṣṭī-bhūto mṛtaḥ.

（梵和）　そこで世尊は一切如来の御心より出生したる「ヴヂュラ〔＝金剛杵〕の本誓」の呪を憶念させられた：『オーン・ニシュンバ〔踏み潰せ！〕ヴヂュラ〔＝金剛杵よ〕フーン・パット！』と。

そこで金剛手大ボサツは自分のヴヂュラ〔＝金剛杵〕・心呪を唱えた：『フーン！』と。

さて此の呪文が説かれるや否や，全・三界から参集せる，大天を首

とする一切の三世の上主たちは面(おもて)を伏せて倒れ，苦悩の声を放ちつつ，世尊と金剛手とに帰依したのであつた。また諸天の中の上天たる彼(かれ)・大天は地上に倒れ，気絶して死んでしまつた。

（漢訳）　爾時世尊。即説一切如来心出生大金剛三昧大明曰　唵引爾遜婆嚩日羅二合吽引発吒半音句

是時金剛手大菩薩。亦説自金剛心明曰　吽引

説是心明時。普尽三界所来集会大自在天等。皆悉覆面迷悶躄地発苦悩声。向金剛手菩薩帰依求救。而彼大自在天等。既躄地已。諸議不行将趣命終。

2.　| atha Bhagavāñ jānann eva Vajrapāṇim evam āha : "prati=
3.　padyasva Vajrapāṇe | asya sakala-tri-loka-cakrasy' âbhayāya !
mā pañcatvam āpādaya!"
4.　atha Vajra|pāṇir mahā-krodha-rājo Bhagavato vacanam
5.　upaśrutya tān sarva-devā((n Mahêśvar'ā))*6)dīn ā|hūy' aivam
āha:
"Buddhaṃ Dharmaṃ (ca) Saṅghaṃ ca śaraṇaṃ pratipadyata !
6.　mam' ājñā-kāri-tāyāṃ | ca yadi 'ṣṭaṃ vaḥ sva-jīvi-tam ! " *7) iti

（梵和）　その時，世尊はそれを知りたまい，金剛手に仰せられるには：『金剛手よ，かの全・三世の輪衆(チヤクラ)の為に，無畏〔＝生命の保証〕を与えよ！死なせる勿れ！』と。

そこで大忿怒王なれど金剛手は世尊の御(み)詞を承つて，彼ら大自在天を首(はじめ)とする一切の諸天に呼びかけられて云うには：

『仏と法と僧団(サンガ)とに依止とし，汝ら到れかし！
また我(わ)が指令の行者たれ！自身の生命(いのち)汝らに惜しくあらば』
と。

（蔵文は偈文の形をとらず―もし汝自らの生命を欲すれば，仏法僧（伽）に帰依し，我れの教勅も又聞けよかし―とあり。）

（漢訳）　爾時世尊知是事。即告金剛手菩薩言。金剛手汝今宜応以自所行。於此普尽三界衆施其無畏勿令此等咸失其命。

時金剛手大忿怒王。聴受世尊如是語已。告大自在天等衆言。汝等若欲活其命者。応当帰命仏法僧宝。依我教勅限順而行。

7.　atha ta evam āhuḥ : "Saṃbuddha-dharma-|saṅghaṃ śaraṇaṃ
gacchāmaḥ, tvac-chāsan'ājñāṃ na jānīma" iti.

8. atha | bhagavān Vairocanas tathāgatas tān āhūy' âivam
9. āha : "ayaṃ bho devā 'smākaṃ | sarva-tathāgatâdhipatiḥ sarva-
10. tathāgata-pitā sarva-tathāgat'ājñā-karaḥ sarva-ta|thāgata-jye=
ṣṭha-putro, bhagavān Samantabhadro bodhisattvo mahāsattvaḥ
11. sarva-sattva-|vinayana-kārya-karaṇa-tayā mahā-krodha-rājya-
12. tāyām abhiṣiktaḥ. tat kasmā|d dhetoḥ? santi yuṣman-madhye
13. Mahādev'ādayo duṣṭa-gaṇās,te sarva-tathāgatair api|na śakyāḥ
sāntatayā*8) pāpebhyo nivārayituṃ. teṣāṃ pāpa-sattvānāṃ ni=
14. |grahāy' âdhiṣṭhitas, tad yuṣmābhir*9) asya samaye sthātavyam
ity ājñā iti.

（梵和） その時，彼らの云うには：『仏法僧に我ら帰依し奉る。されど我らは尊者の教勅（シャーサナ）と指令（アーヂュニヤー）とを知らず』と。

その時，世尊ビルシャナ如来は彼らに呼びかけられて仰せられた：『友よ，諸天よ，此の者〔＝金剛手〕は我らの為には一切如来の上主であり，一切如来の父であり，一切如来の指令の行者であり，一切如来の長子である。この具徳（バガボン）・普賢(2)〔'普善'＝金剛手〕ボサツ大士（マカサツ）こそ一切衆生を調御すると云う事業を作す者であるが故に，大忿怒王位に灌頂〔＝即位〕されてあるのだ。その故如何となれば：汝らの間に，大天らの悪衆あらんか，彼らを寂静（しづか）な方法で〔＝摂護して〕諸悪から制止することは一如来には出来ないから，彼ら悪衆生の折伏の為に，彼が特に加持〔＝援護〕されているのだ。だから，「汝らは彼の本誓（サマヤ）に住すべきである」との指令が示されてあるのだと』と。

（漢訳） 大自在天言。我若帰命仏法僧宝。然汝教中所有教勅。我亦不知。

爾時世尊大毘盧遮那如来。告大自在天言。汝今当知此一切如来増上主宰。一切如来父。一切如来教勅所作。一切如来最上子。具徳普賢金剛手菩薩摩訶薩。為諸衆生作調伏事故。受大忿怒王灌頂。所以者何。以汝大自在天等諸極悪衆。一切如来猶尚不能寂静制止。由是菩薩。為令悪業諸有情等。皆悉調伏安住三昧。汝今宜応依我教勅三昧中住。

15. ta | evam āhur : "asmākaṃ Bhagavann asmāj jīvita-vipra=
16. lopāt paritrāyasva ! yā|m ājñāṃ dāsyati,tat karisyāmaha" iti.
17. Bhagavān āha : "haṃ bho mārṣā | etam eva śaraṇaṃ

gacchatâ! 'yam eva vaḥ paritrāsyati, nâ 'nya" iti.

18. atha te | tri-loka-sakala-traidhātuka-saṃnipatitāḥ tri-bhu=

19. vana-patayo, yena Bhagavān | Vajradharas tenâ 'bhimukhā,

20. eka-kaṇṭhā mahăr̥tasvarān pramuñcanta evam āhuḥ : | "pari=trāyasva bho Bhagavan ! paritrāyasva ((bho Sugata))*10) ato maraṇa-duḥkhād ! " iti.

21. | atha Vajrapāṇir mahā-bodhisattvas tān ((Mahā))dev'ādīn

22. āhūy' âivam āha : "haṃ bho | duṣṭāḥ pratipadyata mama

23. śāsane ! mā vo ('ham a)nena vajreṇa eka-jvā|lī-kr̥tya sarvān eva bhasmī-kuryām ! " iti.

24. ta evam āhuḥ: "Samantabhadras tvaṃ | bhagavan, sarva-tathāgata-cittôtpādaḥ ((śānta-suvinītaḥ))*11) sarva-sattva-hitâiṣī

p.138,1. sarva-sattvâ|bhaya-pradaḥ. tat kathaṃ Bhagavann asmākaṃ nirdahiṣyasî ? " ti.

2. atha Vajrapā|ṇir mahā-krodha-rājas tān evam āha :

3. "ten' âivâ ('haṃ) mārṣāḥ Samanta-bhadro, yena | sarva-tathā=gat'ājñā-kāri-tvād yuṣmad-vidhānāṃ duṣṭa-sattva-jātīyānāṃ

4. pāpa-ci|ttānāṃ saṃbodhanârthāya. vināśayāmi yadi mat-samaye na tiṣṭhata" iti.

5. | te prāhur : "evam astv ! " iti.

（梵和） 彼ら云うには：『我らを，世尊，生命(いのち)のこの破滅から救いたまえ！如何なる指令を世尊が与えようとも，その通り我らは作すであろう』と。

世尊ビルシャナ如来の云われるには：『オオ，友なる聖者らよ，此(こ)の者にこそ帰依せよ！此(こ)の者のみが汝らを救うであろう。他の者たちは然らず』と。

その時，彼ら三世の全・三界から参集した三有類の主たちは，具徳(バガボン)・持金剛〔＝金剛手〕の在ます処，その処に対向(むか)い，口を揃えて，大苦悩の声を放ちつつ申すよう：『救いたまえ，友なる具徳(バガボン)よ！護りたまえ，友なる善逝(スガタ)よ！この死苦より！』と。

その時，金剛手大ボサツは彼ら大天らに呼びかけて宣示して：『オオ友たちよ，悪者たちよ，汝らは我(わ)が教勅(シャーサト)に従い修行したがよいぞ！

おれが此のヴヂュラ〔金剛杵〕をもて，それを一塊の火焔と化して，汝ら総てを焼き払つて灰燼に帰せしめることにならないように！』と。

彼ら云うには：『尊者は普賢(2)〔'普善'〕と称われる方ではないか？具徳よ！一切如来の御心より生れし人，寂静なる人，善く調御されたる人，一切衆生の利益を希う人，一切衆生に無畏〔＝生命の保証〕を施す人ではないか。何故に，具徳よ，我らを焼き捨てようとされるのか？』と。

そこで金剛手・大忿怒王は彼らに宣言した：『如何にも我は普賢(2)〔'普善'〕である，聖者らよ。その理由は一切如来の指令の行者であるからなのだ。即ち汝ら如き悪衆生に生れついたる者どもを，悪心の輩を睹めさせんが為なのだ。若し我が本誓に住せざれば我れは破滅させるばかりだ』と。

彼ら申すには：『仰の如くに』と。

（漢訳）　大自在天言。世尊我今不能存活其命。願汝救我。如汝所授我之教勅。我当随行。仏告大自在天言。若能帰依金剛手菩薩。我即是汝真実救護。余無護者。是時普尽三界所来令衆。咸悉対向金剛手菩薩前。異口同音発苦悩声。作是自言。金剛手願救護我願救護我。今我死苦。唯願摂護。

爾時金剛手大菩薩。告我衆言。汝諸悪者。於我教中如教所行。無令我此大金剛杵発火光明。都為一聚。広大熾焔焚焼一切。悉為灰燼。時我衆言。汝即普賢一切如来心所出生。寂静善調利益一切有情。普施無畏。云何於我不為饒益。

時金剛手大忿怒王。告我衆言。諸聖者我雖具普賢心。然由一切如来教勅所作。以汝極悪有情生罪業心。不於如来三昧住者。使我為我調伏。令得清浄。時我衆言。我等如是悉住三昧。

6. atha Vajrapāṇir mahā-krodha-rājo Mahêśvaraṃ mu|kutvā
'nyān devān āśvāsy' ôtthāpanârtham idaṃ 'Vajrôṭṭiṣṭhaṃ' nāma
7. sarva-tathāga|ta-hṛdayam abhāṣat : "((oṃ)) vajr' ôttiṣṭha !"
8. ath' âsmin bhāṣita-mātre Mahêśvaraṃ mukutvā | sarve te tri-dhātuka-saṃnipatitās tri-bhuvana-patayaḥ sa-parivārāḥ
9. saṃmūrchitāḥ | samānāḥ, samāśvasta-ḥrdayā abhūvan. divyāni
10. sukhāny anubhavanto|vigata-bhaya-stambhita-roma-harṣā bha=

11. gavantaṃ Vajrapāṇim avalokayantaḥ samu|tthitā iti.

atha Bhagavān Vajrapāṇim bodhisattvam āmantrayām

12. āsa : | "ayaṃ mahāsattv((a)) Mahādevo devâdhipatir nô

13. 'tthāpitaḥ. tat kim asya jī|vita-vipranāśena kṛtena ? jīvāpay'

14. âinaṃ ! sat-puruṣo 'yaṃ bhaviṣyati" | 'ti.

atha Vajrapāṇir 'evam astv!' iti kṛtv' êdaṃ mṛta-saṃ=

15. jīvana-hṛdayam udā|jahāra : "vajr'āyuḥ!"

（梵和）　時に金剛手・大忿怒王は大自天在を除外して他の諸天を慰宥め，起き上らせる為に，この「ヴヂュローッティシュタ」と名づくる・一切如来の心呪を唱えた：『オーン・ヴヂュラ＋ウッティシュタ！〔金剛杵よ，起き上がれ！』と。

さてこの心呪が唱えられるや否や，大自在天を除外して，彼ら三界から参集したる三有類の主たちは総て，その侍衆と俱に，先に悶絶していたのが今や心に安息を得たる者となつた。天界の快楽を享受しつつ，怖畏を免れ，髪の毛を硬ばらせて喜び，具徳・金剛手を望み眺めつつ，起き上つたとのことである。

その時，世尊ビルシャナ如来が金剛手ボサツに宣われるには：『大士よ，此の大天・諸天の中の上天・が未だ起き上がらせられていないじやないか。此の者の生命が亡ぼされても又何の益があろう？蘇生させよ，彼を！善丈夫と此の天はなるであろう』と。

そこで金剛手は「仰せの如くに」と応えて，死者を蘇生えらせる此の心呪を唱え上げた：『ヴヂュラ＋アーユフ！「金剛の如く不壊なる寿命を有つ者となれ！〕』と。

（漢訳）　爾時具徳金剛手菩薩摩訶薩大忿怒王。且置大自在天。即為余天衆等安慰令起。説此金剛起一切如来心大明曰　嗡縛日嚕二合引底瑟妃二合句。

説是大明時。除彼大自在天。余三界衆幷諸着属。前所蹙地諸迷悶者。即時咸得安慰其心。獲妙楽触遠離怖畏。身毛喜竪。瞻仰具徳金剛手菩薩。即能俱起。

爾時世尊告金剛手大菩薩言。大士此三界主大自在天。何故不起于地。而此将非壊失命邪。時金剛手大菩薩。即為宣説護命大明曰嗡縛日囉二合引喻句

ath' âṣmin bhāṣita-mātre Mahādevo ((devâti))devo

16. mṛtaḥ | saṃjīvy' ôtthātum icchati, na śaknoty utthātuṃ. tato
17. Bhagavantam etad avo|cat: "kim ahaṃ Bhagavatā evaṃ śāsyāmi ?"
18. Bhagavān āha: "na tvaṃ prati|padyasy asya mahā-sat-puruṣasy' ājñāṃ kartuṃ. ayam eva te 'nuśāsti, nâ 'haṃ."
19. | Mahêśvaraḥ prāha: "kiṃ na tvaṃ Bhagavañ śakto 'smād
20. duṣṭa-sattvāt paritrātu|m ? iti.

Bhagavān āha: "nâ 'ham asmāt samarthaḥ paritrātum."

21. ((Mahêśvara)) āha: "tat ka|sya hetoḥ ?"

((Bhagavān)) āha: "sarva-tathāgatâdhipati-tvāt."

22. ((Mahêśvara)) āha: "nâ 'haṃ Bhagavan | Bhagavato bhā=ṣitasyâ 'rtham ājāne, kiṃ tu yatra hi nāma tathāgatānām
23. api | sarva-traidhātukâdhipatīnām anyo 'dhipatis, tan na jāne; ko 'yam? "iti.
24. | atha bhagavān Vajrapāṇir mahā-bodhisattvaḥ punar
p.139,1, api Mahādevam āhūy' âiva|m āha: "na pratipa(dyasi) duṣṭa-sattva mam' ājñāṃ kartum iti.
2. atha Mahā|devo Vajrasattva-vacanam upaśrutya kupitaś
3. caṇḍī-bhūtas tath' ăpatita eva pu|nar api mahā-raudra-rūpa-tāṃ
4. darśayaty evam āha: "maraṇam apy utsahāmi,na ca | tav' jñāṃ karṣyāmi."
5. atha Vajrapāṇir mahā-bodhisattvo mahā-ko|patāṃ saṃ=darśayan sva-krama-talād *12) ida((ṃ Vājrânuca))raṃ *13) niścacāra:
6. "oṃ pād'ā|karṣaṇa-vajra hūṃ!"

（梵和） さて此の心呪が唱えられるや否や，諸天の中の上天たる大天は今まで死んでいたのが蘇生えり了つて，起き上ろうと欲した。しかし起き上ることが出来ない。そこで世尊ビルシャナ如来に申し上げるには：『わしは世尊に依つてかくも調伏されているのですか？』と。

世尊宣うには：『汝は此の大善丈夫〔＝金剛手〕の指令に従うことを勤めていない。此の人こそ汝を調教しているのだ，我は然らず』と。

大自在天曰く：『世尊よ，世尊はわしを此の悪有情〔金剛手を指す〕から救い出すことが出来ないか？』と。

世尊宣うには：『彼の者から汝を救い出すことは我には出来ぬ』と。

大自在天曰く：『それは何故ぞ？』と。

世尊宣うには：『金剛手が一切如来の上主であるから』と。

大自在天曰く：『世尊よ，世尊の仰せ給ふ言の意は解せない。そもそも諸の如来が已に一切・三界の上主である；その諸の如来に更に他の上主が在ますと仰せられるか？そのことは解せぬ。何人ぞ，此の者は？』と。

時に具徳金剛手大ボサツは再び大天に呼びかけて云うには：『悪有情よ，汝は我が指令に従おうと勤めないのだな！』と。

さて大天は金剛サッタ〔＝金剛手〕のこの言葉を聴いて，本来怒りつぽく，残虐たらしい性質の者だが，このように急襲されたので，またまた大暴悪者の形相を示現して云うには：『死はまだ忍べるが，しかし汝の指令には従わないであろう！』と。

その時，金剛手大ボサツは大忿怒の相を示現して，自分の足の裏から〔或は自分の心から〕(3) ヴヂュラ＋アヌチャラ鬼〔‘金剛杵に随行するもの’〕の此の呪文を発唱え出された：『オーン・パーダ＋アーカルシャナ〔足から牽き出すところの〕・ヴヂュラ！〔金剛杵よ！〕・フーン！』と。(4)

（漢訳）　説是大明時。大自在天欲従地起。雖竭其力意復不能。即白仏言。世尊于今何人為我師帰。仏言我非汝師帰。我金剛手大士是所帰処。汝今何不依我教勅随応所行。大自在天言。世尊若汝非是我師帰者。唯能救護諸悪有情。仏言為救護者。即我金剛手。非我所能。大自在天言。所以者何。仏言我金剛手是一切如来増上主宰故。大自在天言。我不解仏所説我。仏如来者為三界主。云何金剛手大士復増上邪。我意不能暁明斯義。

爾時具徳金剛手菩薩摩訶薩。復告大自在天言。汝悪有情。何故不依我教勅行。

是時大自在天。聞金剛手菩薩作是語已。復現暴悪大猛悪相。作如是言我寧趣死。終不於汝教中所行。

時金剛手菩薩大忿怒王。従自心現執金剛阿摩左囉忿怒之像。説是大明曰

唵引 播引 那引 葛哩沙合 嚩拏日囉合 吽引句

atha Bhagavataś caraṇa-talāt samanta-jvala-((vajra-))[*14] garbhaḥ
7. kṛta-bhrukuṭi- | daṃṣṭrā-karāla-mahāvaktro Vajrânucaro[*15]
8. (Vajrapā)ṇeḥ purato sthitv' ājñāṃ | mārgayām āsa.
atha Vajrapāṇir Mahêśvara-saṃśodhana-nimittam evam
9. āha: | "oṃ pād'ākarṣ' ākarṣāya sarva-Vajra-dha((rânucara kaṇḍa kaṇḍa))[*16] vajra hūṃ jaḥ!"
10. ath' âi|vam ukte Mahādeva Umā-devī-sahita ūrdhva-pādo
11. nagnaḥ sarva-jagadbhir upahasya|mānaḥ pād'ākarṣaṇa-Vajrânu-
12. careṇa bhagava(to Vajrapā)ṇeḥ purato pāda-tale | sthāpita iti.
atha Vajrapāṇir bodhisattvo Bhagavantam etad avocat:
13. |"ayaṃ Bhagavan duṣṭa-sattvaḥ sa-patnīkaḥ, kiṃ karomi? ('ti).
14. Bhagavān āha : "oṃ | vajr' ākrama hoḥ ! "

そこで世尊ビルシャナ如来の[(5)]御足裏から普く焔えさかるヴヂュラ〔＝金剛杵〕の新生児として，眉をしかめ，牙を露出し，長面〔大口大鼻〕のヴヂュラ＋アヌチャラ鬼〔'金剛杵随行鬼'〕[(6)]が化生して，金剛手の前に立ち，その指令を乞うたのであつた。

その時，金剛手は大自在天を浄化る目的で，次の如く呪文を唱えた：『オーン〔帰敬の聖音〕・パーダ＋アーカルシャーヤ！〔仏足より牽き出す者の為に（＝金剛杵の為に）ささぐ〕・サルヴ・ヴヂュラダ＋アヌチャラ！〔一切の持金剛者の随行鬼よ〕・カンダ・カンダ！〔バラバラに砕け！〕・ヴヂュラ！〔金剛杵よ〕・フーン・ヂャハ』と。

さて是のように唱えられた時，大天はその妃ウマー夫人と倶に逆立ちにされ，裸露にされ，一切世間に嘲けり笑われつつ，仏足より牽き出されたる金剛杵随行鬼に依つて，具徳金剛手の前に，その足の裏に打ち据えられたとのことである。

その時金剛手ボサツは世尊ビルシャナ如来に申し上げるには：『世尊，此れは悪有情で，妃を伴つています。如何が致しましよう？』と世尊は呪文を説かれた：『オーン・ヴヂュラ〔金剛杵よ〕・アークラマ〔踏みつけよ！〕・ホーホ！』と。

（漢訳）　爾時世尊大毘盧遮那如来。即挙足心。亦現金剛阿耨左囉忿怒之像。周匝熾焔鞏眉利牙。大面可畏。住金剛手大菩薩前。復請教令。

是時金剛手大菩薩。為大自在天作清浄故。説是大明曰。　唵引 播引

那葛哩沙引合二　葛哩沙引合二　野一句　薩哩嚩合二　嚩日囉合二　達囉引　**㗚**左囉二
建茶建茶三　嚩日囉合二　吽引　㗚四。

説是大明已。時大自在天及烏摩天后。偃仆於地雙足上起。裸露形体醜悪之相。一切観者咸生戲笑。是時即以足心所現忿怒之像鉤召。悉於金剛手前足踵而住。時具德金剛手菩薩摩訶薩。前白仏言。世尊此極暴悪天及天后。作何制止。

爾時世尊即説大明曰

唵引　嚩日囉合二　訖囉合二　摩吽引一句

ath' âivam ukte Vajrapāṇir maḥā-bodhisattvo Mahādevaṃ
15. vā|ma-pād'ākrāntaṃ kṛtvā dakṣiṇena c' Ômā ((devīm ākrama=))*17)
16. yann idaṃ svaḥrdaya|m udājahāra: "oṃ vajr' āviśa ! hana pātraṃ ! traṭ."
17. ath' âsmin bhāṣita-|mātre Mahādevaḥ samāviṣṭaḥ sva-kara-sahasreṇa ((sva-mukha-sahasraṃ))*18) (gatā)sum ahanat.
18. atha va|jra-maṇi-ratna-śikhara-kūṭāgārasya bāhyataḥ
19. sarva-tri-bhuvanair mahā-nādo muktaḥ : | "ayaṃ so 'smākam adhipatir anena mahātmanā ((samāviṣṭaḥ))*19).
20. atha Bhaga|vān Mahādevasy' ā(viṣṭasya) mahā-karuṇām
21. utpādya idaṃ sarva-buddha-maitrī-hṛdaya|m abhāṣat: "oṃ buddha-maitrī-vajra rakṣa ! hūṃ."
22. ath' âsmin bhāṣita-mātre | Mahādevasya tad āveśa-duḥkham upaśāntaṃ. tac ca Vajrapāṇi-pāda-tala-sparśā((d))*20) a=
23. |nuttara-siddhy-abhiṣeka-samādhi-vimokṣa-dhāraṇī-jñānâbhijñā'
24. vāptaye yāvat ta|thāgatatvāya saṃvṛtta iti.

p.140,1. atha Mahādevo Bhagavat-pāda-tala-sparśāt sa|rva-tathā=gata-samādhi-dhāraṇī- vimokṣa-mukhāny anubhavan Mahādeva-
2. kāyam Vajra|pāṇi-pāda-mūle niryātayitvā 'dhastād dvātriṃśaṅ-
3. Gaṅgā-nadī-vālukôpama-lo|kadhātu-paramâṇu-rajaḥ-sama-loka=
4. |dhātavo 'tikramya Bhasm'āchanno nāma lo|kadhātus tatra Bhasmêśvara-nirghoṣo nāma tathāgata utpannaḥ.

さてそのように唱えられた時に，金剛手大ボサツは大天を左足で踏みつけ了つて，右足でウマー夫人を踏みつけながら，次の自身の心呪を唱えた：『オーシ・ヴヂュラ〔金剛杵よ〕＋アーヴィシャ！〔侵攻せよ！〕・ハナ・パートラム！〔鉢を砕け！〕』[7]と。

さて此の呪が唱えられるや否や，大天は全く降服して，自分の千手もて，自分の千面をば息も絶えに打据えたのであつた。

時しも，金剛・珠・宝を尖頂とする楼閣の外では，一切三有類どもに依つて大音声が放たれた：『彼・我らの此の上主は此の大霊聖〔＝金剛手〕に全く降服せしめられて了つた！』と。

その時，世尊ビルシャナ如来は降伏せしめられたる大天に大悲心を生ぜられて，次の一切仏慈心呪を唱えられた：『オーン・ブッダ・マイトリー・ヴヂュラ！〔仏慈の金剛杵よ！〕・ラクシャ！〔護れ！〕・フーン』と。

さて此の呪文が唱えられるや否や，大天の，かの降伏苦は鎮められた。また金剛手の御足裏に触れたことを因として，無上・シッヂ〔＝成満位〕・灌頂・定・解脱・ダラニ・智・神通を獲・乃至・如来位に転進したとのことである。

さて大天は具徳金剛手の御足裏に触れたことを因として，一切如来の定・ダラニ・解脱の法門を享受しつつ，大天の身を金剛手の御足下に捨て了つて〔＝死んで〕，下方世界に向かい，32ガンガー河の砂粒ほどの多世界を更に極微塵とした程の多世界を越えて「バスマ＋アーチャンナ」[8]「灰に被われたる〕と名づくる世界があるが，そこに「バスマ＋イーシュワラ・ニルゴーシャ」〔‘灰・自在主・号音〕と名づくる如来として生まれ更つたのであつた。

（漢訳）　説是大明巳。金剛手大菩薩即拳左足踏大自在天。右足踏烏摩天后。逼附乳間。説是大明曰。　唵引　嚩日囉引二合尾舎一句　喝那野引　怛嚧二合二怛囉二合　吒半音三

説是大明時。大自在天由逼迫故。拳自千手打其千面。時我摩尼宝峯楼閣之外。所有天衆俱発大声。唱如是言。今我主宰大自在天。已為金剛手大士之所降伏。

爾時世尊為大自在天故。起勝上大悲心。説一切仏慈護心明曰。

唵引　没駄味底哩二合引　嚩日囉二合　拏又引　欠一句

説是心明時。我大自在天即入三昧。入三昧巳。諸苦皆息。又以金剛手菩薩足心触故。即時獲得無上悉地勝妙灌頂及三摩地解脱総持神通智

等。如是得入一切如来三摩地解脱総持門已。我大自在天身。従金剛手菩薩足心而出。下方過三十二殑伽沙数極微塵量等世界。至一世界。名跋娑摩餐那。有仏出世。号跋娑弥莎囉爾哩瞿沙如来応供正等正覚。

註

(1) (a) 「世尊」とは又「バガボン」と云う。仏への尊称。この処ではビルシャナ如来を指す。p.137, 8 : Vairocana。p.139, 6 相当の漢訳にもこの仏名が出ている。(b) また金剛手ボサツ〔[Vajra-pāṇi p.135,11]を指すこともある。漢訳には「具徳」と訳しあり，これは語源的には正しい。 bhaga〔福分，語根： bhaj'分つ'〕を -vant 〔具せるもの〕の義である。強語幹bhagavant 主格° vān, 呼格° van。「世尊」の梵語は：loka-jyeṣṭha。

(2) 普賢〔梵，samanta-bhadra' 普善'〕，「普く他に親切な人」の義，金剛手の異名。

(3) 漢訳には『自心ヨリ』とあり，梵は sva-hṛdayād とあつたことであろう。p.135, 2 参照。

(4) 漢訳には『執金剛アヌチャラ忿怒ノ像ヲ現ジ』とあり。蔵訳には像か呪か明示されていない。

(5) 漢訳には『世尊ビルシャナ如来，即チ足心ヲ挙ゲ，マタ金剛アヌチャラ忿怒ノ像ヲ現ズ』とあり。梵蔵には単に「バガボン」のとありて仏名が明示されていない。

(6) 金剛杵随行鬼 [vajra+anucara] は調伏者の姿である。

(7) hana, Pāli: hanati の命令形。

(8) 火葬灰によつて，即ち葬式などをして，生計を立てる世界，火山灰や死の灰を皮肉つているか。

Notes.

* 1) Bhagavant here for the Buddha Vairocana, whose name is mentioned in p.137,8 and in the Chinese equivalent of p. 139,6. But this eqithet is also applied for the Bodhisattva Vajrapāṇi (p. 135,11).

* 2) sva-hṛdayāḍgṛhy is not provable. Prof. Tucci: "togliendo il *vajra* dal proprio cuore."

* 3) This proves a verse in meter śloka. sarvajña-jñāna, according to Prof. Tucci : "la sapienza dell'Omnisciete."

* 4) in stead of bhuvana the Chinese has here bhūta,cf. p.137,18;

tri-bhuvana-patayo.

* 5) idṛśaḥ, Pāli: īdiso.

* 6) The original Sanskrit text for the Tibetan translation may have had sarva-devān ; 'Mahêśvara' is mentioned in the Chinese equivalent.

* 7) Meter : śloka, cf. Note *3).

* 8) Skt. śāntatayā.

* 9) Skt. yuṣmābhir.

*10) "bho Sugata" ,according to the Tibetan passage, for the Bodhisattva Vajrapāṇi may be possible and seems here very likely, but no such words are found in the Chinese equivalents.

*11) "śānta-suvinītaḥ",according to the Tibetan and the Chinese equivalents.

*12) sva-krama-talād 'from his own foot sole',the reading of the Sanskrit and the Tibetan text is not very likely. The Chinese reading; sva-hṛdayād, 'from his own heart', may be more easy to understand. cf. p.135,2.

*13) Vājrânucara, a Vṛddhi-derivative, means 'the mantra of the demon Vajrânucara'; the reading of the Chinese passage is not very likely: 'the figure of the demon Vajrânucara'.

*14) vajra-, according to the Tibetan text.

*15) "Vajrânucara" is one of the demons or servants, according to the Tibetan and the Chinese transcriptions, cf. Note *13).

*16) This mantra accords to the Chinese transcription.

*17) According to the Tibetan and the Chinese equivalents.

*18) According to the Tibetan and the Chinese.

*19) According to the Tibetan and the Chinese.

*20) sparśam ((āday)) may be possible, but in the line 24, sparśāt.

Index (1) words.

adhiṣṭhāya 136,16.
adhiṣṭhita 137,14.
abhaya 137,3; 138,1.
abhiṣikta 137,11.
abhiṣeka 139,23.
ājñā 135,10; 136,2.5.12.15.16; 137,5.7.9.14.16; 138,3.18; 139,1.4.7.
ājñāpayati 136,3.
Umā 139,10.15.
kaṭa-pūtana 136,14.

bhagavant (a) Vairocana; 135,1.7; 136,4.5.6.18.20; 137,2.4.8.15.16; 138,11.16.17.17.19.20.((21)).21.22; 139,6.12.13.13.19.
(b) Vajrapāṇi 135,11; 136,10.24; 137,19.25; 138,1.10.24; 139,(11).12.24; 140,1.——Samantabhadra 137,10.24; 138,1. —— Vajradhara 139,18.20.
bhaya 138,10.
Bhasm'āchanna 140,3.
Bhasmêśvara-nirghoṣa 140,4.
mahātman 139,19.
Mahādeva 135,12; 136,2.4.15.18.23; 137,1.12.((21)); 138,12.15.24; 139, 1.10.14.17.20.22.24; 140,1.
Mahêśvara 135,4; 136,6.9.15;((137,4)); 138,5.7.19.((20.21)); 139,8.
mahaiśvarya 136,19.
yakṣa 136,1.2.7.
vajra (a) thunderbolt 135,1.5.8; 136,3.8.13.20.21.22; 137,22; 138,6.15 139,6.((6)).9.14.16.21.——(b)diamond 135,6.7.; 139,17.
Vajradhara 137,19.
Vajradharânucara 139,9.
Vajrapāṇi 135,8.11; 136,2.7.10.13.17.21.24; 137,2.2.3.21; 138, 1.5.10.11. 14.24; 139,4.7.8.11.12.14.22; 140,1.
Vajrasattva 139,2.
Vajrânucara 139,7.11.
((Vājrânucara)) 139,5.
Vairocana 137,8.
śās 138,17.——anu-śās 138,18.
śāsana 135,10; 136,19; 137,7.22.
saṃvara 136,7.
Samantabhadra 137,10.23; 138,3.
samaya 135,1.2.5; 136,4.7.17.21; 137,14; 138,4.
samādhi 135,1; 139,23; 140,1.
Sugata ((137,20)).
Sumeru 135,6.
hṛdaya (a) dhāraṇī 135,2; 136,22; 138,7.14; 139,15.20.——(b)heart 135,2.8; 136,20; 138,9.

Index (2) things.

hṛdaya (-dhāraṇī) 135,3; 136,21.22; 138,7.15; 139,5.9.13.16.21.

（以上の語彙に相当の蔵漢の訳語を附すべきであつたが他事のために果し得なかつたことは甚だ残念である（酒井）